



秋田県 能代市上町自治会 能登 祐子
(能代市自治会連合協議会 会長)

1 はじめに

能代市は秋田県の北西部にあり、雄大な日本海と世界自然遺産「白神山地」をあおぐ、自然豊かな町です。

そんな能代ですが、「秋田県の少子高齢化、人口減少率は常に全国トップ！」歯止めがかからない状況にあります。そんな中で地域活動が活発になったのが、平成14年に女性部「すみれ会」が設立されてからの事でした。自治会長も女性が就任したことから、女性ならではの「日常の視点」が生かされるようになり、課題の解決が急速に進みました。

最初の取り組みが平成16年の能代市との協働の「除排雪事業」。12月から3月まで雪に閉ざされる東北の冬は厳しく、内陸部と比較して積雪は少ないものの沿岸特有の強風が吹き荒れ道路も氷つきます。上町は官庁街であり、雪を捨てる場所が無いので道路がどんどん狭くなり、危険な状況に陥ります。この困りごとを行政と一緒に解決。自治会に感動と達成感が生まれました。このことが自治会全体の世帯調査（個人情報保護）につながり、有事の際にもスムーズに実践できることを確信しています。



除排雪事業

2 自主防災組織の結成と活動

日本海中部地震の被災経験がある能代。除排雪の翌年、上町自治会自主防災組織を結成しました。

東日本大震災の際も、自治会全体の安否確認がスムーズに終了！組織力に感動の連続でした。

自主防災は安否確認が何よりも重要と判断し、町内を8ブロックに分け、役員（2名）、各ブロック責任者（1名）、各ブロック情報伝達員（自立避難困難者の安否確認）を置き、自分のブロック状況を責任者に報告。情報伝達員→責任者→役員→会長に報告し全世帯把握。全世帯（57件）は、約15分～20分で確認を終了することができます。

また、夜間での災害に備え、安否確認を実施します。日中に気が付かない危険な箇所を確認するなど、自分たちの地域を知ることから始め、疑似体験や防災備蓄庫の場所、内容の把握などの日頃の備えを心がけています。

1年に1度、この安否確認を実施しています。一時避難施設「能代ふれあいプラザ・サンピノ」に集合し「防災セミナー」を開催、毎回講師を招き市内自治会（267）に案内を行



安否確認

い、地域全体で防災意識の向上に努めています。訓練では、「非常食づくり」、ハイゼックスシート（炊飯袋）にお米1合と水を入れて輪ゴムで結わえ、大鍋に入れます。水は、泥水でも塩水でも使用できます。

家庭にあるものを利用し、有事の際に迅速に活用できることも「防災力」に繋がります。

防災は、楽しく、美味しく学ぶ良い機会となっており、上町女性部「すみれ会」はベテラン指導者となり、いつも大活躍です。



非常食づくりコーナー

3 単独から合同組織へ

単独自治会での防災力に限界を感じ、近隣自治会で話し合いを重ね合同組織「能代第一自主防災協議会」を平成27年に設立、10自治会の会長全員が役員となり、運営に努めています。この協議会が大きな力となり、共助の強化に繋がり、今年度は能代市社会福祉協議会も加入。地域の情報共有が可能となったことも大きな進歩と言えます。



避難所訓練

今年度は新型コロナウイルス発症という感染被害に直面し、地域の連携がますます重要となります。新型コロナウイルス感染症への警戒が続く中で災害が発生した場合の感染リスクを下げた避難所開設・運営が必要となることから、7月、秋田市旭南地区の開設訓練に参加。貴重な学びとなり、能代市で報告会を開き新たな社会環境の変化にも対応できる備えを進めています。今年度は例年開催の防災セミナーは中止し、各自治会が安否確認を終了後、一時避難所の居住スペースと幅2メートルの通路を確保して収容できる人数、世帯の確認を実施しました。

4 終わりに

こうした近隣自治会との連携は地域の大きな力となり、地域防災に繋がって行きます。日ごろの「備え」が無ければ救うことも共助も成り立ちません。これらのことを次世代の子供達に伝えて行く必要があります。「釜石の奇跡」のように防災教育は必要不可欠だと思います。近くの小学校（淳城西小学校）にお願いし、運動会の種目に防災を入れていただき、継続されています。楽しみながら防災を学び、自助、共助を身につけながら大人へと成長することを願っています。

災害を我が事として受け止め、地域づくりを含めた防災力の向上に努めて行けたらと思います。「まず、やってみよう！」を心がけたいですね。



タンカでの競技